学校番号	３１３

令和３年度　芸術科書道

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「書道Ⅱ」　（東京書籍）						
副教材等	・楷書の手ほどき（教育図書）・硬筆レッスン帳（教育図書）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰの学習を発展させ、幅広い書の表現を体験し、自分らしい作品を創作するようにしましょう。
・書の古典を広く、深く学ぶことで、先人が築き上げてきた書の文化について身を持って実感し、自分のアイデンティティに気づき、それを肯定できるようにしましょう。また他の民族の文化にも思いを馳せ、異なった文化にも理解を示せる心を養いましょう。

２　学習の到達目標

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		

4月 5月 6月 7月	刻字	・刻字の文字の表現 ・刻しかた ・着色の技法	○	○	○	○	a:筆圧の変化やかすれなど、筆文字の中で刻字に適した表現を工夫している。 b:刻しかたの技法を理解し、表現しようとしている。 c:彩色の技法について理解し、効果的に表現しようとしている。 d:刻字作品の展示について考え、効果的な方法を身につけている。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
8月	字仮名交じりの漢書（硬筆）	・行書とそれに合うひらがなの表現 ・全国硬筆コンクール出品	○	○	○	○	a:筆記用具に合わせ線の表現を工夫している。 b:古典を基に行書の運筆法を理解し、表現しようとしている。 c:縦書きで罫線等がない場合の表現を工夫している。 d:行書に合うひらがなの崩し方を理解し、表現しようとしている。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
9月 10月	漢字の書（五書体の学習から半紙六文字作品）	・五書体の学習 ・漢字半紙六文字作品 ・半紙コンクール出品	○	○	○	○	a:五書体（楷書・行書・草書・隷書・篆書）の美とその表現技法について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b:各書体の基本的な用筆方法を理解し、表現を工夫している。 c:　書体の変遷について理解している。 d:文字の成り立ちに興味を持ち、代表的な五書体の古典を知り、そのよさや美しさを味わっている。	

11月 12月	漢字の書（草書半創作切作品）	・草書の用筆法 ・文字固有の大きさや形を認識し、作品作りに活かす ・半切作品作りについてより優れた表現を考える。 ・表具、軸表装 ・高校展出品	○	○	○	○	a:墨色について関心を持ち、積極的に表現技法を高めようとしている。 b:草書の崩しかたの原則を知り表現しようとしている。 c: 草書の筆使いについて理解し、表現を工夫している。 d:半切作品における効果的な配置を理解し表現しようとしている。	
1月 2月 3月	漢字仮名交じりの書	・主題を決めパフォーマンス書で表現する。 ・バックの表現を工夫し書の作品と調和させる。	○	○	○	○	a:課題に合う言葉や表現を個性的に工夫し表現している。 b:バックのデザインとの調和を考え、表現している。 c: 用具、用材を工夫している。 d:文字の大きさや配置、表現を工夫している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。